

令和4年度

事業実績報告

社会福祉法人 信濃川令終会

目 次

第1	施設の概要	1
第2	事業所別事業実績報告	
	(1) 岡 南 の 郷	
	① 特別養護老人ホーム岡南の郷	5
	② ショートステイ岡南	11
	③ デイサービスセンター岡南	14
	④ グループホームこうなん	18
	⑤ 居宅介護支援事業所岡南	21
	⑥ ケアハウス岡南	23
	(2) せ っ た や の 郷	
	① デイサービスセンターせったや	27
	② グループホームせったや	30
	(3) 看 護 室	32
第3	苦情受付状況	34
第4	研修の状況	36

第1 施設の概要

1 経営主体

名 称	社会福祉法人 信濃川令終会
所在地	新潟県長岡市渡沢町字早田53番地
理事長	小野澤 豊
認可年月日	平成12年7月25日

2 施設の名称等

(1) 岡南の郷

施設 の 名 称	サービスの種類	定員	開設年月日	指定(更新)年月日	介護保険事業者番号
特別養護老人ホーム岡南の郷	介護老人福祉施設	82名	平成13年4月9日	令和2年4月9日	1570200897
ショートステイ岡南	短期入所生活介護	11名	平成13年4月9日	令和2年4月9日	1570200905
デイサービスセンター岡南	通所介護	29名	平成13年4月9日	令和2年4月9日	1570200889
グループホームこうなん	認知症対応型共同生活介護	18名	平成14年6月1日	令和2年6月1日	1570201077
共用型デイサービスこうなん	共用型認知症対応型通所介護	6名	平成30年8月1日	平成30年8月1日	1570201077
居宅介護支援事業所岡南	居宅介護支援	/	平成13年4月9日	令和2年4月9日	1570200863
ケアハウス岡南	軽費老人ホームケアハウス	15名	平成13年4月9日	/	/

(2) せったやの郷

施設 の 名 称	サービスの種類	定員	開設年月日	指定(更新)年月日	介護保険事業者番号
デイサービスセンターせったや	通所介護	25名	平成21年4月1日	令和3年4月1日	1570202810
グループホームせったや	認知症対応型共同生活介護	9名	平成21年4月1日	令和3年4月1日	1590200224
共用型デイサービスせったや	共用型認知症対応型通所介護	3名	平成30年8月1日	平成30年8月1日	1590200224

3 施設規模

(1) 敷地面積

- ① 岡南の郷 12,770.13 m²
- ② せったやの郷 1,372.22 m²

(2) 建物面積

- ① 特別養護老人ホーム岡南の郷(ケアハウス、デイサービス等含む)
鉄筋コンクリート造陸屋根4階建 延べ面積 6,446.24 m²
- ② グループホームこうなん(2ユニット)
 - 1 木造2階建 延べ面積 358.73 m²
 - 2 木造2階建 延べ面積 372.43 m²
- ③ せったやの郷(デイサービス、グループホーム)
鉄骨造合金メッキ鋼板葺2階建 延べ面積 711.26 m²

4 設備内容

(1) 岡南の郷

施設名	居室	設備
特別養護老人ホーム	個室 46 4人部屋 9	サービスステーション、事務室、相談室、洗濯室、宿直室、調理室、食堂、特別浴室、静養室、医務室、機能訓練室
ショートステイ	個室 7 4人部屋 1	
デイサービスセンター		事務室、食堂、特別浴室、一般浴室、事務室、休養コーナー
グループホーム (2ユニット)	1 個室 9	居間、食堂、台所、浴室
	2 個室 9	居間、食堂、台所、浴室
ケアハウス	個室 15	事務室、食堂、一般浴室、相談室、洗濯室、図書コーナー、レストコーナー

(2) せったやの郷

施設名	居室	設備
デイサービスセンター		事務室、食堂、特別浴室、一般浴室、事務室、休養コーナー
グループホーム	個室 9	居間、食堂、台所、浴室

5 協力病院

新潟厚生連 長岡中央総合病院
医療法人誠心会 吉田病院

6 嘱託医

田中 直行
江部 佑輔

7 職員数

令和5年3月31日 現在

事業所名	事務長 施設長		副事務長 副施設長		管理者		生活相談員		看護職員 保健師		機能訓練指導員		介護職員		事務員 栄養士		その他		計	
	正	兼	正	兼	正	兼	正	兼	正	兼	正	兼	正	兼	正	兼	正	兼		
法人本部	2	(兼1)													5		2	13	22	
特別養護老人ホーム岡南の郷	1	(兼1)	1	(兼1)	2	(兼1)	4		1		1	37	3	4	(兼1)				58	
シヨートステイ岡南	1		1	(兼4)	1		1		5	(兼1)	6	2	2		(兼1)			5	25	
デイサービスセンター岡南			1								9		4		(兼1)			1	16	
グループホームこうなん	(兼1)		1							(兼1)									5	
居宅介護支援事業所岡南			1																5	
ケアハウス岡南	(兼1)		1	(兼1)				1					2		1				5	
せったやの郷	1			(兼3)	1		1		3	(兼1)	4	1	5		(兼1)			4	21	
デイサービスセンターせったや											6		1						8	
グループホームせったや			1						(兼1)						(兼1)				8	
計	5	3	4	4	0	6	1	10	3	0	1	62	6	18	6	0	0	2	23	160

正職員	99
臨時職員	9
パート職員	52
計	160

8. 職員採用退職状況

令和5年3月31日 現在

職 種		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
看護職員	正職員													0
	臨時													0
	パート													0
機能訓練指導員	正職員	1							1				1	2
	パート													1
	正職員													0
生活相談員	正職員													0
	臨時													0
	正職員													0
介護職員	正職員	2								1				3
	臨時													0
	パート	1											2	5
介護支援専門員	正職員													0
	臨時													0
	パート													0
事務員 栄養士	正職員													0
	臨時													0
	パート 嘱託	1							1					2
その他	採用	4	0	1	0	0	0	0	2	1	2	0	1	11
	退職	1	1	1	0	0	0	1	1	0	1	0	0	4
	差引計	3	-1	0	0	0	-1	1	1	1	1	0	1	-4
計	正職員へ登用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

第2 事業所別事業実績報告

(1) 岡南の郷

① 特別養護老人ホーム岡南の郷

1 利用状況

(1) 月別入退所状況

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
入所	男	0	1	1	0	0	1	0	1	1	0	1	0	6	0.50
	女	2	2	3	2	2	3	1	1	5	2	2	2	27	2.25
退所	男	0	1	1	1	0	0	0	0	3	2	1	0	9	0.75
	女	2	3	4	0	1	5	0	5	1	1	1	2	25	2.08
月末入所者数		82	81	80	81	82	81	82	80	81	80	81	81	972	81.00

(2) 介護度別入所者

介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	平均
R5.3.31	0	0	8	23	50	81	4.51
%	0.0%	0.0%	9.9%	28.4%	61.7%		
R4.3.31	0	0	4	33	45	82	4.50
R3.3.31	0	0	6	36	40	82	4.41

(3) 年齢別入所者

年齢	60 ～64	65 ～69	70 ～74	75 ～79	80 ～84	85 ～89	90 以上	計	平均年齢
R5.3.31	0	0	4	12	10	17	38	81	87.5 歳
%	0.0%	0.0%	4.9%	14.8%	12.3%	21.0%	46.9%		
R4.3.31	0	1	5	6	12	28	30	82	87.2 歳
R3.3.31	0	2	9	6	11	23	31	82	86.8 歳

2 重点施策

特養共通

(1) 平均入所率向上と平均空床期間の短縮

平均入所率は目標値95.0%以上に対して97.1%と目標を達成できた。しかし、平均空床期間は目標値10.0日以内に対して、11.0日と目標を達成できなかった。空床期間が上半期平均9.7日に対して下半期平均12.5日となっており、11月中旬から12月初旬にかけて発生した新型コロナウイルス感染症の流行による事前訪問調査の停滞と年末年始にかけて退所の集中が重なり、新規入所まで時間がかかったことが要因として挙げられる。上半期の動きを年度を通してできるように、事

前訪問調査のルーティンワーク化、事前調査・家族面談・診療情報提供書の提出を1セットとして入所候補者のストック作りを行い、空床期間の短縮を目指す。

(2) コロナ禍における情報発信

各種SNSを活用した情報発信について検討を行ったが、写真の掲載方法やSNSを利用する年齢層と入所者家族層とのミスマッチ、運用方法等の課題が多く、運用には至らなかった。今後の活用については、対象層の絞り込みや発信方法等を法人委員会と連携して協議していく。

新型コロナウイルスの流行状況に応じて、施設内での対面面会と窓越し面会を切り替えながら面会の機会を確保し、都度近況報告に努めた。また、面会の頻度が多くない家族には、入所者の状態変化時には状況を伝えるとともに面会の依頼を行う等の配慮を行った。今後も感染症の状況に応じた面会方法を実施しつつ、積極的に近況報告等の発信を行っていく。

(3) 業務の効率化とICT活用の推進

介護ロボット導入施設として、全床に導入した眠りスキャンの運用状況を研修会やセミナー等で発信する機会があり、当事業所の考え方や運用方法について評価をいただいた。また、発信することにより得られる情報もあり、情報交換に繋がった。

新たな機器の導入に向けての検討やデモ機の試験運用を経て、既存の眠りスキャンとの連携や職員間の連絡にかかるロスを削減するため、インカムシステムの導入を進めている。更なる業務の効率化と入所者の生活の質の向上に向けて、最適な機器の導入の選定や検討を続けていく。

(4) 新入職員の指導・育成方法の確立

新入職員1名に対してプリセプター制度を導入し、指導・育成に当たった。OJTだけでなく、日々の業務終了後の振り返りや定期的な指導者・上長との面談等Off-JTを充実させることで、新入職員や指導者をバックアップする体制を整え、チームとして人材育成に取り組んだ。これまでの指導実績を踏まえて課題を洗い出し、新入職員の振り返りシートの導入や指導職員間の連携強化等、新たな取り組みを加えながら、指導体制を発展させていく。

(5) 介護プロフェッショナルキャリア段位制度の運用

介護プロフェッショナルキャリア段位制度の運用に向けて、2名の職員がアセッサー（評価者）講習を修了し、相互評価によりレベル認定を申請中である。今後はアセッサーを中心に業務指導・評価基準を設け、新入職員の指導や現任職員の業務評価を行っていく。また、介護プロフェッショナルキャリア段位制度は全国的に見てもレベル認定者数が約9,000人と少ないため、希望者にはレベル認定を勧めていき、客観的評価による介護技術レベルの高さをアピールしていきたい。

(6) 外部研修への参加

職員個々の研修ニーズや管理職からの推薦を照らし合せて、延べ59名が33の研修に参加した。オンライン研修が中心ではあるが、グループワークが取り入れられたり、一部では集合研修も再開されたりと研修を通して意見交換できる場が戻りつつある。今後も積極的に外部研修に参加し、自己研鑽と交流の場を設けていく。また、安

定した加算算定体制を構築するため、認知症介護実践者・実践リーダー研修へは1名以上参加申し込みを行っていく。

(7) 個別面談の実施

副管理者と介護職員の定期的な面談は実施できなかったが、施設長面談を通じて挙げた課題や改善点を共有し、副管理者と当該介護職員との個別面談を実施して課題解決に努めてきた。また、新入職員に対しては、指導職員・副管理者・副施設長が時期ごとに面談を行い、成長度を確認しながらステップアップを進めることができた。今後も業務から離れた場での面談を実施していき、副管理者が中心となって現場の課題解決や業務改善に取り組んでいく。

(8) 感染予防策の徹底とコロナ禍に配慮した生活の質の向上

感染予防策として、標準予防策の徹底と検温の継続実施、感染症の流行状況に応じた法人行動指針の順守、必要に応じて抗原検査等の実施を行ってきた。しかし、8月には3階職員・入所者計7名、11月にはショートステイを含む2階職員・利用者計8名の新型コロナウイルス感染症の陽性者が発生した。入所者は施設内療養となったが、感染ゾーン勤務者の選定や感染防護策を徹底し、2週間程度の短期間で終息を迎えることができた。今後は新型コロナウイルスの類型変更に伴い、入所者や家族・周囲のウイルスに対する意識の変化が予測されるが、高齢者福祉施設職員として変わらない感染予防意識を持って対応していきたい。

コロナ禍において、入所者の生活は制限や制約が多くなってしまったが、食事のテイクアウトや調理レクの充実、不特定多数との接触を避ける形での移動販売の利用、少人数での外出レクを工夫しながら実施してきた。また、家族等の協力を得て自宅への外出、流行状況に応じて窓越し面会や施設内での対面面会を実施する等の工夫も行った。新型コロナウイルスの特性がある程度理解されてきた中で、類型の変更も控えており、嘱託医の助言を得ながら少しずつ施設外での活動を増やしていきたい。

(9) 安全対策

① 事故・ヒヤリハット件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事故報告	11	11	13	12	9	6	14	13	20	6	19	6	140
ヒヤリハット	21	17	25	25	22	18	13	15	17	12	7	9	201
計	32	28	38	37	31	24	27	28	37	18	26	15	341

② 事故内容

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転倒・転落	8	9	7	9	3	5	6	5	9	1	6	4	72
誤嚥・異食(誤飲)	1	0	0	0	0	0	1	1	2	0	1	0	6
誤薬・内服漏れ	2	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0	6
経管栄養(抜去含む)	0	0	2	2	3	1	2	1	5	3	6	1	26
その他(痣の発見、深爪)	0	2	4	1	2	0	5	5	4	2	4	1	30
計	11	11	13	12	9	6	14	13	20	6	19	6	140

(10) フロア別

① 特養2階

面談や業務改善を継続的に実施して課題を洗い出し、ワーキンググループを作って課題解決に向けて検討と実践を行ってきた。介護職員で課題解決に向けて取り組むことで業務改善の意識を向上できるよう、今後は業務に合わせてワーキンググループを細分化し、PDC Aサイクルに基づいて取り組んでいく。また、管理職はアドバイザー的役割を担い、客観的な立場から課題の投げかけや助言、グループ間の課題の共有等をアプローチしていく。

介護プロフェッショナルキャリア段位制度の運用に向けて、1名がアセッサー（評価者）講習を修了し、レベル認定を申請中である。レベル認定を受けることで介護職員に必要とされる知識や技術の客観的評価を知る機会になるため、希望者にはレベル認定を推奨し、チーム全体のケア力の向上を目指す。

また、制度上の評価基準をプリセプター制度の改善や現任職員の評価にも活用していく。

月	行事名	行事内容
4月	花見	園内の中庭を散歩し、観桜した。
5月	壁画作り	紫陽花の花をイメージした壁画を作製した。
	バスハイク	ハイブ長岡へ外出し、花壇の散策とおやつのお食事を楽しんだ。
6月	壁画作り	朝顔の花をイメージした壁画と紙コップ風鈴を作製した。
	バスハイク	花テラスへ外出し、散策した。
7月	七夕	七夕の飾り付けや記念撮影、おやつ作りを行い、季節感を味わった。
	壁画作り	花火をイメージした壁画を作製した。
8月	夏祭り	神輿の興行や長岡花火の映像鑑賞、屋台風レクを行い、楽しんだ。
9月	敬老会	各フロアでの表彰式と祝宴を行い、敬老の日を祝った。
	壁画作り	ハロウィンをイメージした壁画を作製した。
10月	ハロウィンパーティー	ハロウィンにちなんだ仮装撮影や飾り付けを行い、季節を感じた。
	壁画作り	紅葉をイメージした壁画を作製した。
11月	文化祭	作品展への出展や作品鑑賞、できたての焼き芋をお食し、楽しんだ。
12月	クリスマス・忘年会	祝膳やケーキをお食し、年末の季節感を味わった。
1月	新年会	獅子舞披露、祝膳や季節の和菓子の喫食を通して新年を祝った。
2月	節分会	恵方巻に見立てたロールケーキをお食し、邪気を払って健康を願った。
3月	ひな祭り	甘酒や茶菓子等を喫食して、ひな祭りを祝った。

少人数での外出行事や創作レクを通して、季節を感じていただくことを意識して計画・実施した。

② 特養3階

ワーキンググループの活動として、レクリエーションでは従来の体操等の「動」のレク以外にマッサージや回想法等の「静」のレクを取り入れ、ADLに関係なく多くの入所者が参加できるレクリエーションを開拓した。また、接遇では入所者に対す

る正しい言葉遣いや職員がストレスを溜め過ぎないようなアンガーマネジメントに関する情報等を発信し、知識の向上を図った。今後も活動を継続し、レクリエーションの定着と接遇面の更なる改善を目指していく。

眠りスキャンを活用した睡眠データの収集により、浅眠や不眠の傾向にある入所者の情報を共有し、日中の離床時間の調整やレクリエーションの参加等で生活リズムを整えるよう働きかけることができた。また、排尿検知器の活用については、403回の検証を行い、検知精度は約80%という結果となった。眠りスキャンとの紐づけは難しいが、排泄回数が減少していく看取り期の入所者に対しては排尿検知時に排泄ケアを行い、清潔保持と過剰な排泄ケアを行わないことでの身体的負担軽減が両立できると考えられるため、目的に応じた活用を行っていく。

介護ロボットを積極的に導入・活用することで、入所者の状態把握と職員の労務負担軽減に繋がり、業務の効率化を図れた。今後も介護ロボットの情報収集に努め、導入による業務の効率化・負担軽減に取り組む。

月	行事名	行事内容
4月	観桜会	園内の中庭で花見を行い、季節のお菓子を提供して春の訪れを感じた。
5月	お楽しみ会	歌声広場やおやつ会を通して視覚や聴覚への刺激入れと入所者同士の交流を図った。
6月	おやつ作り	フルーツあんみつを作り、おやつに喫食した。
7月	ちょこっとお出かけ	少人数で外出し、入所者の思い出の場所を回った。
8月	スイカ割り	スイカ割りを楽しみ、おやつに喫食した。
	夏祭り	神輿の興行、屋台風レク、園児の太鼓演奏の映像鑑賞を行い、楽しんだ。
9月	敬老会	各フロアでの表彰式と祝宴を行い、敬老の日を祝った。
10月	おやつ作り	ホットケーキを作り、おやつに喫食した。
	音楽祭	歌声広場を通して視覚や聴覚への刺激入れと入所者同士の交流を図った。
11月	文化祭	作品展への出展や作品鑑賞、できたての焼き芋を喫食し、楽しんだ。
12月	クリスマス・忘年会	祝膳やケーキを喫食し、年末の季節感を味わった。
1月	新年会	獅子舞披露、祝宴で新年を祝った。
2月	節分会	豆まきを行い、邪気を払って健康を願った。
3月	ひな祭り	甘酒やケーキを喫食して、ひな祭りを祝った。

園内での行事が中心となったが、少人数で個別性を重視した外出、定期的な昼食やおやつのできアウト等、日常生活の中でも楽しみを持てるような工夫を行った。

3 給食の状況

(1) 栄養量(1日当たり)

区分	エネルギー(Kcal)	タンパク質(g)	カルシウム(mg)	脂質(g)
本施設の 基準提供栄養量	1,300	57	600	30
	1,500	66	600	35
	1,700	70	600	45

※3種類の栄養量の食事を用意し、入所者の身体状況に合わせた食事を提供している

(2) 療養食

項目	腎臓食	糖尿食	膵臓食	潰瘍食	心臓病食
人数	0	2	0	0	6

※複数の療養食に該当する場合あり

(3) 行事食状況

年月日	行事名	食事内容
5月5日	端午の節句	ふきご飯、鯖の南蛮漬け、若竹煮、白和え、いちご
7月7日	七夕	七夕そうめん、かき揚げ、糸瓜の和え物、杏仁豆腐
8月25日	夏祭り会	焼きそば、焼き鳥、夏野菜のおでん、デザートバイキング
9月19日	敬老会	醤油赤飯、刺身、天ぷら盛り合わせ、柿なます、巨峰
12月20日	忘年会	蟹ちらし、湯葉入りすまし汁、刺身、酢味噌和え、スイートポテト
12月31日	年越し	鯛めし、そば入りすまし汁、新巻鮭、天ぷら、もやしと桜エビのさっと煮
1月1日	元旦	ちらし寿司、筑前煮、元旦口取、卵豆腐
1月11日	新年会	握り寿司、蓮根すり流し汁、茶碗蒸し、お浸し、いちごのミルクがけ
2月3日	節分	いなり寿司、いわしのつみれ汁、大豆とひじきのサラダ、節分ロールケーキ
3月3日	ひなまつり	ちらし寿司、はまぐり潮汁、春鰹のたたき、ぜんまいの煮物、ひな祭り三色花ゼリー

② ショートステイ岡南

1 利用状況

(1) 月別利用状況

① 延べ利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
令和4年度	416	422	416	443	435	405	425	325	397	433	401	414	4,932	411.0
令和3年度	437	465	432	457	431	403	438	454	445	441	393	410	5,206	433.8
令和2年度	407	411	420	429	494	448	449	420	446	403	412	432	5,171	430.9

② 一日平均利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和4年度	13.87	13.61	13.87	14.29	14.03	13.50	13.71	10.83	12.81	13.97	14.32	13.35	13.5
令和3年度	14.57	15.00	14.40	14.74	13.90	13.43	14.13	15.13	14.35	14.23	14.04	13.23	14.3
令和2年度	13.56	13.26	14.00	13.84	15.94	14.93	14.48	14.00	14.39	13.00	14.71	13.94	14.2

③ 平均利用日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和4年度	8.16	8.79	8.67	9.43	8.70	8.80	8.85	8.55	8.63	9.21	8.35	8.63	8.7
令和3年度	9.10	10.11	9.00	8.46	8.62	8.57	9.32	8.73	8.40	8.65	9.14	8.91	8.9
令和2年度	8.48	8.74	8.24	8.25	9.69	9.33	8.47	7.92	9.29	10.07	9.36	9.81	9.0

④ 介護度別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
要支援2	0	0	0	0	1	1	1	0	1	1	1	1	7	0.58
要介護1	5	3	3	4	4	4	5	4	4	5	7	5	53	4.41
要介護2	15	15	17	14	14	10	12	8	11	12	12	13	153	12.75
要介護3	10	9	11	11	9	10	9	10	11	12	10	11	123	10.25
要介護4	14	13	11	12	14	14	12	9	11	10	11	10	141	11.75
要介護5	7	8	6	6	8	7	9	7	8	7	7	8	88	7.33
計	51	48	48	47	50	46	48	38	46	47	48	48	565	47.08
平均介護度	3.05	3.16	3.00	3.04	3.16	3.22	3.17	3.18	3.17	3.04	2.97	3.06	3.10	

(2) 地域別利用状況

	六日市	十日町	阪之上	宮内	四郎丸	富貴亀	豊田	千手	川崎	栖吉	神田	その他	市外	計
令和4年度	21	8	0	32	1	3	2	3	0	0	0	21	0	91
令和3年度	20	12	1	24	2	2	3	3	0	0	0	13	0	80
令和2年度	19	20	1	22	1	2	0	4	0	0	1	15	0	85

2 重点施策

(1) 個別機能訓練等の加算算定の取り組み

個別機能訓練加算は計8名延べ81回の算定実績となり、目標の実算定者数10名／年の目標は達成できなかった。通所介護と異なり、毎週定期的に利用するケースが少ないために利用中の機能訓練ニーズが薄い反面、通所介護や通所リハ、老人保健施設からのリハビリの継続を希望されたケースもあった。今後も実算定者数10名／年を目標として、新規利用や担当者会議等で個別機能訓練の算定について説明し、算定者数増を目指す。

(2) 平均稼働率向上のための取り組み

平均稼働率は目標値118％に対して122.8％と目標を達成できた。しかし、11月中旬に利用者から新型コロナウイルス陽性者が発生したことを受けて当月末まで新規入所受入を停止したため、11月は稼働率98.8％と落ち込んだ。12月も116.4％と目標値以下となったことで、前年度稼働実績から-6.8％という結果となった。

平均実利用者数は目標値50.5名／月に対して47名／月と目標を達成できなかった。しかし、目標値を上回る月もあり、また、利用終了者数21名／年に対して新規利用者数32名／年を獲得できている。新規利用者の継続的獲得と不定期利用にとどまっている利用者が定期利用に結び付くように働きかけていき、平均実利用者数の目標達成を目指す。

(3) 定期行事の充実

月2回程度創作レクや調理レクを計画し、年間実利用者数91名中62名に参加していただくことができた。創作や調理の作業工程を通じて利用者間の交流が深まる様子が見られ、また、創作作品を持ち帰ることで家族等との会話のきっかけになる等の効果を得られた。実施日の曜日や週数が重複しないよう心掛けたが、業務都合により特定の曜日や月の下旬に集中してしまったため、今後は日程に余裕を持って計画を進めていく。

今後も月2回程度のレクリエーションは継続しつつ、利用者のニーズに合わせて図書コーナーや談話スペース等を設置し、余暇時間の充実を図っていく。

(4) 定期ミーティングの開催

毎月多職種が参加するミーティングを開催し、利用者個々のケア方法の見直しや業務についての意見交換を行った。また、協議内容をフィードバックし、ショートステイ担当職員以外のフロア職員も統一したケアを行えるように努めた。レクリエーションへの取り組みに対して、個々の意識の差が実施時間のばらつきに結び付いている等課題も見えてきた。レクリエーションの目的を明確にし、共通認識を持って計画的に実施するために情報共有を行っていく。

(5) 送迎業務への関わり

土・日を中心に介護職員が送迎業務に関わり、家族と顔を合わせる機会を設けてきた。しかし、送迎業務経験のある介護職員が多くないことや週末のみの業務のため、特定の職員に偏ったり特定の利用者の送迎にしか当たらなかつたりと、課題は多く残

されている。

今後、より多くの職員が送迎業務に携わり、多くの利用者の送迎を行えるよう、平日の送迎業務に介護職員が携われるような業務の見直しや工夫を行う。

(6) 感染症対策の徹底

感染予防策として、標準予防策の徹底と検温の継続実施、感染症の流行状況に応じた法人行動指針の順守、必要に応じて抗原検査等の実施を行ってきた。しかし、11月19日からショートステイ利用者2名を含む職員・利用者合わせて8名の新型コロナウイルス感染症の陽性者が発生し、11月30日まで新規入所受入を停止せざるを得なくなってしまう。

幸い利用者間の感染拡大はなく短期間で終息を迎えたが、今後は新型コロナウイルスの類型が見直され利用者・家族の意識の変化が予想されるため、施設内で流行をさせないよう感染状況に応じた受け入れ基準等の対策を随時検討・実施していく。

<事故報告状況>

発生状況 \ 発生場所	フロア	居室	トイレ	浴室	計
転倒・転落	5	14	3	0	22
誤薬等	3	0	0	0	3
異食	0	0	0	0	0
傷、表皮剥離	0	3	0	2	5
その他	2	0	0	0	2
計	10	17	3	2	32

利用者のADLや危険認知力の低下に伴い、転倒・転落事故が全報告の7割近くをしめた。また、職員の目が届きにくい居室内での事故が多く、センサーマット等の機器を用いて行動確認や受傷予防を行うケースも増えてきているが、骨折に至った事故も2件発生した。利用者の状態変化を家族や担当介護支援専門員とも共有し、事故発生リスクに理解を得ながら、事故防止・受傷予防に努めていく。

③ デイサービスセンター岡南

1 利用状況

(1) 月別利用状況

① 延べ利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
令和4年度	642	621	599	585	571	557	592	483	539	596	571	578	6,934	577.83
令和3年度	734	732	711	725	718	713	679	677	711	609	504	689	8,202	683.50
令和2年度	731	765	702	710	714	697	752	739	741	715	669	745	8,680	723.33

※ 大雪の影響で12月19日～20日まで利用休止した。

② 一日平均利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和4年度	21.40	20.00	20.00	18.90	18.40	18.60	19.10	16.10	17.40	19.20	20.40	18.60	19.00
令和3年度	24.50	23.60	23.70	23.40	23.20	23.80	21.90	22.60	22.90	19.60	18.00	22.20	22.45
令和2年度	24.40	24.70	23.40	22.90	23.00	23.20	24.30	24.60	23.90	23.10	23.90	24.00	23.78

③ 介護度別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
要支援1	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	27	2.25
要支援2	3	3	2	2	2	2	4	3	3	3	3	3	33	2.75
要介護1	10	9	10	10	10	11	12	12	13	13	13	13	136	11.33
要介護2	32	33	30	28	28	26	27	28	30	29	28	28	347	28.91
要介護3	19	17	18	17	15	15	14	15	13	16	17	13	189	15.75
要介護4	7	7	7	7	8	9	7	7	8	9	7	8	91	7.58
要介護5	3	2	2	4	4	5	7	6	5	4	4	4	50	4.16
計	77	74	72	70	69	70	73	73	74	76	74	71	873	72.75
平均介護度	2.45	2.41	2.41	2.50	2.50	2.56	2.55	2.51	2.44	2.46	2.43	2.42	2.47	

(2) 曜日別利用状況

	月	火	水	木	金	土	日	計	平均
令和4年度	1,037	961	1,096	1,074	1,007	977	782	6,934	990.57
令和3年度	1,174	1,157	1,278	1,271	1,111	1,175	1,036	8,202	1,171.71
令和2年度	1,231	1,247	1,343	1,262	1,217	1,188	1,192	8,680	1,240.00

地域別利用状況

	六日市	十日町	宮内	山通	豊田	富貴亀	千手	阪之上	神田	四郎丸	川崎	その他	市外	計
令和4年度	39	26	18	0	3	0	1	0	0	0	0	15	0	102
令和3年度	49	19	17	0	2	0	0	0	0	0	0	15	0	102
令和2年度	55	22	14	0	3	0	0	2	0	0	0	22	0	118

2 重点施策

(1) 安定した事業経営への取り組みと利用者の確保

定期的に居宅介護支援事業所や地域包括支援センターへ営業活動・情報交換を行った結果、平均利用者数19.0名、稼働率65.5%、平均実利用者数72名、月の平均利用者数577.8名、年間新規利用者数は29名であり、目標数値の平均利用者数25.0名、稼働率86.2%には届かなかった。年間を通じて新型コロナウイルスの影響を受け、特に11月・12月は大きく利用者数が減少した。次年度も更なる営業活動に努めるとともにサービスの質の向上を図り、新規利用者の獲得を目指す。

(2) 自立支援・重度化防止への取り組みの推進

個別機能訓練加算（Ⅰ）の算定者は、利用者数の減少により延べ4,227名と昨年度より714名減少した。利用者の満足度を向上させるため自立支援・重度化防止を目的として心身機能の状態だけではなく、在宅での生活状況や環境、介護力等を把握して利用者一人ひとりに個別計画を立案し、機能訓練を実施した。また、ADL・IADLに対し適切な評価を実施したことでADL維持等加算（Ⅱ）の算定を継続できた。

今後も利用者が持っている能力や意欲を引き出し、更なるADLの向上ができるよう機能訓練を実施するとともに、安定した事業経営に向け加算の算定を行っていく。

(3) サービスの質の向上・感染症対策

利用者にとって交流の場としての居心地の良さ、やすらぎを感じられるよう脳トレ、創作活動のプログラムを豊富に取り揃え、利用者が自ら選択して取り組める環境作りに努めた。また、クラブ活動の推進等、職員一人ひとりがサービス向上に努めた。

福祉サービス第三者評価の受審や行事企画で利用者、家族にアンケート調査を実施し、要望等の結果を職員間で共有してサービス向上、行事の充実に努めた。

感染症対策は、日々の基本的な対策を徹底するとともに、予防・まん延防止対策の見直しを随時行い、感染拡大防止に努めた。

(4) 働きやすい職場作り・人材育成

管理者を中心として職員同士がお互いを認め合い、信頼関係を築けるよう職員間のコミュニケーションを大切にすることで、働きやすい職場作りに取り組んだ。

ミーティング等で業務内容の見直しや効率化を図り、業務時間内でケアプラン作成や動画視聴型研修等の時間を設けて時間外労働の削減に努めた。

(5) 安全対策の徹底

危険と感じたらヒヤリハット報告を行い、早急に対策を講じて事故を未然に防げた。事故発生時には原因を多角的に分析し再発防止に努めた。

3 事故報告

発生状況 \ 発生場所	フロア	浴室	トイレ	玄関	その他	計
転倒・転落	2	1	1	0	2	6
誤嚥・窒息・異食	0	0	0	0	0	0
薬関係	2	0	0	0	0	2
傷・表皮剥離・怪我	2	1	0	0	0	3
その他	1	0	0	0	0	1
計	7	2	1	0	2	12

事故発生時に事故ミーティングを行い、要因を分析し事故防止対応策を職員間で共有した。また、毎月のミーティングで事故防止対応策の評価、再検討を行い、再発防止に努めた。

4 ヒヤリハット

発生状況 \ 発生場所	フロア	浴室	トイレ	玄関	その他	計
移動・起居動作・移乗	14	2	1	1	4	22
杖・歩行器の不使用	7	0	0	0	0	7
バイタル測定	0	1	0	0	0	1
食事・水分・服薬	5	0	0	0	0	5
送迎	0	0	0	0	4	4
その他	12	1	1	0	1	15
計	38	4	2	1	9	54

転倒予防に関する事例を含め多くのヒヤリハットが報告された。報告された事例を職員全員で共有し、事故発生を未然に防ぐ取り組みに役立てた。

5 行事

月	日	行事名	内容
4月	13・14	お花見	施設敷地内の桜を鑑賞した。
5月	9・16・23	バスハイク	花テラスへ外出した。
	30	フラワーボトル作り	フラワーボトル作りを行った。
6月	8・15・22	バスハイク	悠久山小動物公園へ外出した。
	29	昼食テイクアウト	利用者希望にてお寿司、特選弁当等を提供した。
7月	21・22	スコーン作り	スコーン作りを行った。
8月	25	夏祭り	模擬店では、かき氷、綿あめ、お好み焼き等を提供し、縁日では輪投げ、千本引き、金魚すくい等で楽しんだ。
9月	19～25	敬老会	喜寿、米寿、白寿等の利用者を発表し、昼食に祝い膳を提供した。
	23・24・25	蒸しケーキ作り	蒸しケーキ作りを行った。
10月	17・18	クッキー作り	利用者希望にてクッキー作りを行った。
11月	3	文化祭	作品鑑賞を行った。
	17・18	布リース作り	布リース作りを行った。
12月	18～24	忘年会	寄せ鍋、すき焼き、ちらし寿司、いなり寿司を提供した。
	18・19	年賀状作り	年賀状作りを行った。
	23・24	ケーキ作り	ケーキ作りを行った。
1月	8～14	新年会	新年の祝い膳を提供し、福笑い、だるま落とし、かるた等を楽しんだ。
	21	コーヒー喫茶	利用者より好きな飲み物を選んでもらい提供した。
2月	2・3	節分会	鬼に扮した職員に豆まきをして楽しんだ。
	21	お菓子のテイクアウト	利用者希望にてケーキ、プリン等を提供した。
3月	19	どら焼き作り	どら焼き作りを行った。
	24	昼食テイクアウト	利用者希望にて特選弁当、イタリアン等を提供した。

新型コロナウイルス感染状況を確認しながらバスハイク等の外出行事を再開した。
昨年度好評だった昼食テイクアウトも引き続き実施した。

④ グループホームこうなん

1 利用状況

(1) 月別入退居状況

		月												計	平均	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
入居	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	女	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	4	0.33	
退居	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	女	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	4	0.33	
月末入居者数		18	18	18	18	18	17	17	18	18	18	18	18	214	17.83	
短期利用		0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	0.16	
通所利用		2	3	3	4	4	4	4	4	3	1	1	1	34	2.83	

※ 通所利用サービス(共用型デイサービス) 利用回数合計 124回

※ 短期利用サービス(ショートステイ) 利用日数合計 27日

(2) 介護度別入居者

介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	平均
R5.3.31	4	7	5	1	1	18	2.33
%	22.2%	38.9%	27.8%	5.6%	5.6%		
R4.3.31	4	6	4	3	1	18	2.50
R3.3.31	6	5	4	2	1	18	2.27

(3) 年齢別入居者

	60	65	70	75	80	85	90	計	平均年齢
	~64	~69	~74	~79	~84	~89	以上		
R5.3.31	0	0	1	0	2	4	11	18	89.0 歳
%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	11.1%	22.2%	61.1%		
R4.3.31	0	0	0	1	2	6	9	18	89.0 歳
R3.3.31	0	0	0	2	4	6	6	18	86.9 歳

2 重点施策

(1) 安定した事業経営への取り組み

空室期間の短縮を図るため、待機者の情報をグループホームせったやと共有することで状態確認を行い、入居率98.3%を確保できた。また、空室期間をショートステイとして活用することで収入増加に繋がった。共用型デイサービスの実利用者数は最大4名となり、利用回数は124回と昨年度より約2倍近く増加したが、目標値である35%には至らなかった。今後も居宅介護支援事業所等への営業や入居申込者に共

用型デイサービスの利用を勧めることで利用者の獲得を進めていく。

また、共用型デイサービスの科学的介護推進体制加算の算定を新たに行うことができた。今後も新たな加算の算定を検討し、安定した事業経営に取り組んでいく。

(2) 利用者のニーズに合わせた個別支援の充実

園芸及びレクリエーション活動の担当職員を配置し、担当職員を中心に脳トレ・創作活動・畑作業等を行い、余暇活動を充実させ、楽しみのある生活や達成感を味わえるような支援を提供できた。また、第三者評価を受け、改善点を把握し、サービスの質の向上に繋げることができた。

(3) 地域との繋がりの強化

散髪や歯科診療等の社会資源の活用を通じての交流は図れたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、地域住民との交流は限定的であった。今後は可能な範囲で地域住民との交流の機会を検討していく。

運営推進会議は2か月ごとに書面開催にて実施し、地域住民代表等から意見や要望を伺った。今後は状況を見て対面での開催を行い、地域住民・家族・利用者が顔の見える関係を構築し連携強化を図っていく。

(4) 家族との連携

家族参加行事は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止としたが、オンライン面会や窓越し面会等により交流を図る機会を提供できた。また、家族の思いや意向を直接確認することでケアプランの作成に反映させた。

毎月、日々の様子等を記入したおたよりや行事写真等を家族に郵送し、利用者の近況報告を行った。今後も家族と情報共有を行いながら利用者が安心して過ごせるよう連携を図っていく。

(5) 職員の資質向上

オンラインによる外部研修への参加や動画視聴型の研修により、職員の資質向上を図った。また、職員ミーティングの際には利用者への支援方法について話し合い、対話的に学ぶことができた。

新型コロナウイルス感染症マニュアルを作成し、全職員が統一した対応ができるよう努めた。

(6) 働きやすい職場作り

職員同士のコミュニケーションを大切にすることで、信頼関係を築き風通しの良い職場環境となるよう取り組んだ。

業務日誌の作成やケア記録は、タブレット端末での入力により効率化や時間外労働の削減に繋がり、職員の負担軽減を図ることができた。

年次有給休暇を計画的に取得することで、職員がリフレッシュでき、ストレスの軽減を図ることができた。

(7) 非常災害時における対応と利用者の安全確保

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から地域住民による自主防災会の参加は無かったが、火災や土砂・水害を想定した実働訓練を実施することで、避難誘導の手順や利用者の避難方法を確認できた。今後も災害時の連絡方法や避難誘導等の対応を常日頃から心掛けて安全の確保に努めていくとともに、自主防災会との協力体制を構築

していく。

3 事故報告・ヒヤリハット

(1) 発生件数

区分 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事故報告	5	3	2	0	0	4	0	1	2	2	1	2	22
ヒヤリハット	15	20	8	6	9	6	8	3	17	11	9	6	118
計	20	23	10	6	9	10	8	4	19	13	10	8	140

ヒヤリハット報告は、皮膚トラブルや転倒リスクに関する事例が多く報告された。今後も職員ミーティング等で対策について話し合い、事故の発生を未然に防ぐ取り組みに役立てる。

(2) 内容別事故報告件数

区分 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
転倒・転落・尻もち	5	3	1	0	0	1	0	0	1	2	1	1	15
受傷(切り傷・裂傷・ 剥離・皮下出血)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
服薬	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3
行方不明(無断外出)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3
計	5	3	2	0	0	4	0	1	2	2	1	2	22

昨年度と同様に転倒・転落・尻もちの事故報告件数が最も多いため、ヒヤリハット報告の分析を行い、再発防止に努めていく。

⑤ 居宅介護支援事業所岡南

1 居宅サービス計画数(国保連請求分)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
令和4年度	142	134	131	130	135	138	141	143	142	135	137	139	1,647	137.3
(新規契約件数)	1	8	2	11	7	7	7	7	1	3	4	6	64	5.3
令和3年度	145	142	139	139	143	145	146	143	144	145	143	142	1,716	143.0
令和2年度	145	147	145	141	141	146	150	149	144	143	141	137	1,729	144.1

2 介護予防支援・くらし元気委託料請求件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
令和4年度	43	43	44	45	43	45	47	46	46	43	43	43	531	44.25
令和3年度	32	34	31	31	32	33	35	37	38	37	39	41	420	35.00
令和2年度	33	33	32	33	33	32	31	34	32	32	32	33	390	32.50

3 長岡市・新潟市・千葉市認定調査件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
令和4年度	13	9	13	9	10	8	9	9	10	15	13	9	127	10.58
令和3年度	7	11	9	10	13	13	11	13	12	13	12	11	135	11.25
令和2年度	2	3	7	3	8	4	5	2	11	10	9	7	71	5.91

4 重点施策

(1) 安定的な事業経営への取り組み

居宅サービス計画数(国保連請求分)が1,647件で昨年度実績より69件減少したが、介護予防支援は111件増加した。相次ぐ施設入所や入院・転院による国保連請求件数の減少を補うため、地域包括支援センターや病院への働きかけにより軽度者や介護予防支援の新規受け入れを積極的に行い、件数減少を補うように努めた。今後も地域包括支援センターや病院への訪問だけでなく、チラシのポスティングによる営業活動も行いながら1件でも多い新規受け入れに繋げる。

(2) 提供する居宅介護支援サービスの質の向上と人材育成への取り組み

利用者や家族の要望に応え、困難なケースにも対応できるように外部研修や経験年数に応じた専門研修に参加した。また、視野を広げ様々な事例に対応できるように、他法人が運営する居宅介護支援事業所や関係機関との情報交換、事例検討を行った。引き続き特定事業所加算Ⅱを堅持し、個々の職員、事業所全体でレベルアップできるように多岐にわたる研修会や事例検討会に参加する。

(3) 地域社会との連携

利用者や家族に対して丁寧かつ迅速な対応に努め、信頼関係を深めることができた。独居、老老介護、家族への支援がより顕著に求められるケース等、関係機関と連携し、

個別の課題に対応した。日頃から社会資源の発掘と活用を心掛け、住み慣れた地域での暮らしを継続できるように福祉のニーズの把握、情報収集を行っていく。

(4) 明るく働きやすい職場作り

事業所ミーティング、ケース検討会を通して、個々が抱える担当ケースで困難な事例や支援内容について意見交換や情報共有を行い、職員が一人で問題を抱え込まず、気軽に相談できる環境作りを行った。また、担当職員不在の場合も利用者や家族に支障が出ないように協力して業務にあたった。今後も、積極的に意見を言える風通しの良い雰囲気作り、やりがいを感じられる職場環境を構築していく。

⑥ ケアハウス岡南

1 利用状況

(1) 月別入退居状況

		月												計	平均
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
入居	男													0	0.00
	女				1			1						2	1.00
退居	男													0	0.00
	女			1	1									2	1.00
月末入居者数		15	15	14	14	14	14	15	15	15	15	15	15	176	14.66

退居者はケアハウスでの生活が困難になったため、1名は老人保健施設、1名は療養型病床にそれぞれ入所となった。

(2) 介護度別入居者

基準日	介護度	自立	要支援		要介護				計
			1	2	1	2	3	4	
R5.3.31		5	1	1	2	3	3		15
%		33.3%	6.7%	6.7%	13.3%	20.0%	20.0%	0.0%	100%
R4.3.31		3		2	4	3	3		15
R3.3.31		3		1	4	2	5		15

平均介護度は低くなったが、要介護1～3の入居者が全体の5割を超えている。

(3) 年齢別入居者

	60 ～64	65 ～69	70 ～74	75 ～79	80 ～84	85 ～89	90 以上	計	平均年齢
R5.3.31			1	1	4	4	5	15	86.1 歳
%	0.0%	0.0%	6.7%	6.7%	26.7%	26.7%	33.3%		
R4.3.31			2	2	1	6	4	15	84.9 歳
R3.3.31			3	1	2	5	4	15	86.1 歳

平均年齢は1.2歳上がり、80歳以上の入居者が全体の9割を占めている。

2 重点施策

(1) 入居者の生活の質(QOL)の向上

① 相談・助言

生活面や健康面の不安等の相談が増えたことから、今まで以上に入居者一人ひとりの生活状況、身体状況の把握に努め、助言を行った。必要に応じて家族・介護支援専門員とともに対応をした。

② 環境・生活

入居者の高齢化に伴い身体状態が低下し、介護と医療が必要な方が増加している。

可能な限り自立した生活が送れるよう本人や家族、介護支援専門員とともに生活面の配慮、訪問看護や必要な在宅介護サービスの提供及び環境整備を行った。

③ 入浴

入浴は毎日提供し、事故防止のため30分毎の巡回を実施した。また、感染症予防と清潔保持のため、塩素濃度の測定や浴室、脱衣室の清掃を徹底した。

④ 保健衛生・緊急・災害時対応

定期的な体重・血圧測定や健康相談を行い、入居者の状態把握に努めた。主治医による年1回の特定健診受診を勧め、疾病の早期発見、早期治療に努めた。

また、3名の入居者が新型コロナウイルスに感染したが、抗原検査の実施及び受診対応等、家族や医療機関と連携を取りながら感染拡大の抑制に努めた。

緊急時は家族等と連絡を取り、主治医・医療機関の指示に従って対応した。連絡方法を明確にしておくことで迅速な対応が行えた。また、災害に備え、入居者が速やかに避難できるように日中・夜間想定避難訓練を行い、防災意識を高めた。

⑤ 介護予防対策

入居者にラジオ体操への参加を勧め、加齢に伴う身体機能低下の予防に努めた。また、健康教室を開催して病気や認知症予防に関する説明や健康増進の体操を行った。

興味の持てる行事や余暇・趣味活動への参加を促し、入居者間の親睦を図り、楽しみのある生活が送れるよう努めた。

⑥ 在宅福祉サービスの提供と情報交換

入居者の身体・精神状態に変化があった際は、入居者、家族等の意向を確認した上で、在宅福祉サービスの提供について主治医や担当介護支援専門員と情報交換を行い、適切なサービスの利用提供等、入居者が安心して生活が送れるように努めた。

(2) 入居者の確保、安定した事業運営への取り組み

包括支援センターと居宅介護支援事業所を中心に営業活動を行った。また、老人保健施設や病院等で入居対象となるニーズがあれば営業や訪問調査を行い、各地域の入居希望に関する動向について適宜確認をして新規入居に繋げられるように取り組んだ。問い合わせには丁寧に説明し、コロナ禍であるが希望者には見学対応をした。

地道な営業活動の継続が入居者確保に繋がるため、今後も力を入れていく。

(3) 職員の資質向上

入居者の状況把握や対応の統一を図るため、連絡ノートを活用や回覧文書で情報の共有を徹底した。また、職員間で話し合いの場を設け、入居者の少しの変化でも気づけるよう医療・介護等の対応について意見交換を行った。

新型コロナウイルスの感染状況についても、日々情報伝達を密にすることを心掛け、職員個々が感染防止への意識を高めるように努めた。

また、ウェブによる外部研修の参加を通じて、必要な知識のレベル向上に取り組む機会を増やした。

(4) 風通しのよい働きやすい職場作り

年次有給休暇の計画的な取得により、職員の生活の充実や気分転換に繋げることができた。日々の業務の中で疑問に思ったことを職員間で話し合い、業務内容を見直す機会を作り、働きやすい環境作りに努めた。

また、入居者の状態変化や新型コロナウイルス感染者の発生に伴う業務負担の改善等について、施設長と職員間で随時情報共有を行い、業務の円滑化の検討や勤務体制の見直し等を含め適宜工夫できる取り組みを行った。

3 事故報告

事故内容 \ 発生場所	浴室	居室	ホール	屋外	その他	合計
転倒	0	3	0	0	0	3
転落	0	0	0	0	0	0
誤嚥	0	0	0	0	0	0
誤薬	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
計	0	3	0	0	0	3

事故報告は3件とも入居者本人に起因する怪我となっている。

前年度との比較	事故の件数	事故者の人数
令和3年度	4件	4人

4 年間行事状況

月	日	行事名	行事内容
4	12	お花見茶会	ケアハウスの裏中庭で桜を鑑賞し、茶話会を行った。
5	23	バスハイク	ながおか花火館に出かけ、気分転換を図った。
7	7	七夕	アイスや果物で作った夏らしいデザートを食べながら、季節を感じていただいた。
8	20	夏祭り会	くじ引きや「長岡甚句」、「大花火音頭」の音楽を流し、お祭りの雰囲気を楽しんでいただいた。
9	19	敬老会	行事食を提供し、職員の余興やスライドショーを観ながら食事を楽しんでいただいた。
10	17	ミニ運動会	チーム対抗で行い、競技中に声援を送るなど、入居者全体が一体となり、大変盛り上がりがあった。
11		干支の置物作り	余暇時間を利用し、紙粘土を使って干支(うさぎ)の置物を作った。
12	21	忘年会	行事食・余興やスライドショーを観て楽しみながら1年を振り返った。
1	12	新年会	祝い膳を食べ、職員の余興やスライドショーを観ながら、新年を祝った。
2	2	節分	豆まきに見立てた玉入れゲームを行い、今年一年の無病息災を祈った。
3	3	ひな祭り	手作りの茶まんじゅうと煎茶を茶話会で提供し、記念撮影を行った。

新型コロナウイルス感染症予防のため、年間行事の中でバスハイク等の行事の回数を減らして実施した。忘年会、新年会は職員の余興で盛り上がり、入居者から楽しんでいただくことができた。また、フロアを会場にミニ運動会を実施し、気分転換を図る機会を作った。

5 趣味活動・余暇活動

回数	曜日等	内容	
週 1 回	金曜	移動スーパー	移動スーパー「とくし丸」来訪により安心してゆったりと買い物ができるようになった。
月 2 回	火曜	買い物	原信旭岡店で買い物をした。
	毎月1日	懇親会	入居者全員が参加し、入居者の意見・要望、職員・入居者間の連絡、ケアハウスの生活について話し合いを行った。
	月末	健康教室	認知症予防のための体操や健康に留意した教室を開催した。
	不定期	おやつ作り	季節を感じられるおやつを作り、茶話会を行った。
	月 末	身体測定	体重、血圧測定を行った。

健康教室では入居者に対し健康増進・認知症予防の講座や体操等を行った。歌声広場は新型コロナウイルス感染症予防のため、年間を通じて実施しなかった。

(2) せったやの郷

① デイサービスセンターせったや

1 利用状況

(1) 月別利用状況

① 延べ利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
令和4年度	583	625	583	549	528	562	581	547	455	431	474	527	6,445	537.08
令和3年度	563	595	599	599	585	592	636	628	640	554	514	550	7,055	587.91
令和2年度	568	600	575	562	521	564	640	574	574	554	568	598	6,898	574.83

② 一日平均利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和4年度	19.40	20.20	19.40	17.70	17.00	18.70	18.70	18.20	15.70	14.40	16.90	17.00	17.77
令和3年度	18.80	19.20	20.00	19.30	18.90	19.70	20.50	20.90	20.60	18.50	18.40	17.70	19.37
令和2年度	18.93	19.35	19.16	18.12	16.80	18.80	20.61	19.13	18.51	18.46	20.28	19.29	18.95

③ 介護度別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
要支援1	2	2	2	2	1	1	1	1	1				13	1.44
要支援2	4	4	4	4	4	4	4	5	4	4	4	4	49	4.08
要介護1	15	17	16	15	14	13	13	12	13	14	15	13	170	14.16
要介護2	17	19	21	20	18	19	18	18	18	21	24	23	236	19.66
要介護3	15	13	12	12	11	12	14	14	13	8	10	11	145	12.08
要介護4	7	7	5	5	7	6	7	7	6	6	5	4	72	6.00
要介護5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	13	1.08
計	61	63	61	59	56	56	58	58	56	54	59	57	698	58.16
平均介護度	2.30	2.22	2.16	2.18	2.27	2.27	2.33	2.36	2.29	2.18	2.14	2.22	2.24	

(2) 曜日別利用状況

	月	火	水	木	金	土	日	計	平均
令和4年度	1,026	915	1,041	955	1,056	840	612	6,445	920.71
令和3年度	970	1,075	1,103	1,039	1,029	974	865	7,055	1,007.85
令和2年度	1,014	963	1,019	1,001	997	1,022	882	6,898	985.42

(3) 地域別利用状況

	六日市	十日町	宮内	山通	豊田	千手	阪之上	神田	四郎丸	川崎	下々条	その他	市外	計
令和4年度	2	10	57	2	5	10	0	1	1	0	0	0	0	88
令和3年度	3	13	58	1	10	9	0	1	1	0	0	0	0	96
令和2年度	0	15	53	1	8	9	0	1	1	0	0	11	0	99

2 重点施策

(1) 安定した事業経営への取り組み

目標数値として平均利用者数21名/日、月間実利用者数80名、月延べ利用者数650名、年間新規利用者数30名と設定し取り組んだ。実績では平均利用者数17.8名/日、月延べ利用者数537.0名/月、年間新規利用者数23名であり、目標達成には至らなかった。要因としては、年間を通して新型コロナウイルスの影響があったことと、年末に市内大雪のため2日間営業ができず、12月、1月が大幅に利用者数が減少したことが挙げられる。今後もできる限り介護支援事業所や地域包括支援センターを訪問して直接顔を合わせて話をするにより介護支援専門員との信頼関係作りに努め、市内では数少ない半日（短時間）利用も可能な施設として新規利用者の獲得を目指す。

(2) 継続的な新型コロナウイルス感染対策

看護職員を中心に1日2回の体温測定を行い、利用者の健康管理、状態把握に努めた。また、利用者や家族へ感染予防を呼びかける案内文書を配布し、日々の体調変化や利用者家族の県外外出、帰省等の情報をすぐに入手できるようにした。担当介護支援専門員とも情報共有、連携を図りつつ、日々の標準予防措置策を徹底し、事業所内での感染拡大防止に努めた。今後も感染症対策を行いつつ、感染発生時でも営業が継続できるよう取り組んでいく。

(3) 個別機能訓練の質の向上と心身機能維持

営業時に理学療法士も同行することで、専門的な機能訓練ができるデイサービスとして徐々に認知されてきた。コロナ禍で外出等が制限され心身機能への影響もある中、利用者や家族のニーズを把握することで、個々の状態に合わせた個別機能訓練等のサービス提供に取り組んだ。その他、行事や余暇活動（体操、脳トレ、創作活動等）を通じて、利用者同士または職員との交流により気分転換を図ることで介護予防・自立支援・重度化防止に努めた。今後も住み慣れた在宅生活継続のためのサービスを提供していく。

(4) 職員が安心して、働きやすい職場作り

各職種の業務内容を随時見直して、サービスの質は変えずに効率化や短縮化を図った。そして、年次有給休暇を計画的に取得できるよう調整し、平均11.4日の有給取得休暇を取得できた。次年度も計画的な有給休暇と職員の予定等により時間有給が取得しやすい、働きやすい職場を目指していく。

3 事故報告

発生場所 事故内容	フロア	浴室	トイレ	玄関	その他	計
転倒・転落	3	1	1	0	1	6
誤薬等					0	0
異食	0					0
傷、表皮剥離	0	2			1	3
その他	1	1	1		0	3
計	4	4	2	0	2	12

4 ヒヤリハット

発生場所 発生状況	フロア	浴室	トイレ	玄関	その他	計
入浴・検温		1				1
移動	5	3	5	2		15
食事・水分・服薬	5					5
送迎				1	1	2
その他	1					1
計	11	4	5	3	1	24

5 行事

月	行事名	行事内容
4月	お花見	施設周辺を散歩しながら桜を鑑賞する。
5月	花壇作り・せったや温泉	庭のスペースに畑・花壇を作った。また、施設での温泉入浴を行った。
6月	移動販売	テイクアウト(ドーナツ)にて、外食気分を味わっていただく。
7月	七夕会・せったや温泉	笹に短冊、七夕飾りを行い、季節を感じていただく。
8月	せったや祭り	長岡まつり開催に合わせ8/2・8/3に夏祭りを行う。
9月	敬老会・ともしび祭り	ケーキバイキングと記念品、メッセージカードをお渡しすることで、長寿のお祝いをした。
10月	焼き芋作り	5月に植えたさつま芋を収穫しておやつ作り(蒸かし芋)をして召し上がっていただく。
11月	文化祭・せったや温泉	施設内に作品を展示し鑑賞していただく。また、温泉入浴を実施した。
12月	大忘年会	忘年会祝い膳を提供し、午後からはデザートバイキングを提供した。
1月	新年会	祝い膳を提供(3日間)、おやつバイキング(2日間)を行う。
2月	節分会・せったや温泉	職員が鬼に扮し豆まきを行い季節を感じていただく。
3月	ひな祭り・おやつ作り	甘酒・ひなあられを提供する。

② グループホームせったや

1 利用状況

(1) 月別入退居状況

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
入居	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
退居	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
月末入居者数		9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	8	107	8.91
短期利用		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
通所利用		8	4	17	22	29	29	29	27	23	16	15	14	233	19.41

※通所利用サービス(共用型デイサービス) 利用回数合計 233回

(2) 介護度別入居者

介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	平均
R5.3.31	1	3	4	0	1	9	2.66
%	11.1%	33.3%	44.4%	0.0%	11.1%		
R4.3.31	3	4	1	0	1	9	2.11
R3.3.31	3	4	1	1	0	9	2.00

(3) 年齢別入居者

	60 ～64	65 ～69	70 ～74	75 ～79	80 ～84	85 ～89	90 以上	計	平均年齢
R5.3.31	0	0	1	0	2	5	1	9	84.9 歳
%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	22.2%	55.6%	11.1%		
R4.3.31	0	0	1	0	2	5	1	9	83.6 歳
R3.3.31	0	0	1	1	1	6	0	9	80.7 歳

2 重点施策

(1) 利用者からの要望に対する支援

コロナ禍ではあったが、お花見やドライブ等の外出行事を3回行った。感染予防対策を講じて人混みを避けて実施し、他にも気候の良い日は近隣へ散歩に出かけることで利用者には喜ばれたように思う。また、利用者が希望する雑誌等を購入してご本人のペースで過ごせるように支援した。

(2) 安定した収入確保への取り組み

1年を通して入退居は無かったが、入院された利用者がいたため入居率92.8%となった。共用型デイサービスは稼働率29.8%で昨年度より良かったが、目標値には届かなかった。

タブレットの導入に伴い業務効率が上がり、毎日の体操やレクリエーションの時間

を確保でき、共用型の利用者だけではなくグループホームの利用者にも楽しみのある時間を提供できた。

(3) 地域との結びつきの強化

コロナ禍の影響は引き続き有り、地域行事や学校等の訪問は無かった。運営推進会議も書面開催で行われ、対面での会議は実施できなかった。その中でも長岡市の専門学校より3名の実習生を受け入れることができ、地域貢献を果たせた。

(4) 家族との交流、結びつきの強化

家族参加行事は開催できなかったが、感染状況が緩やかになった際に一時的に条件付きの面会を再開し、窓越しでない対面面会を実施した。タブレット端末によるオンライン面会もできるようになり、コロナ禍でも関係が希薄にならないよう努めた。また、家族対応の受診をすることで家族とのコミュニケーションの時間を提供できた。

(5) 職員の能力向上と業務の適正化

年度初めに職員から受講希望の研修を聞き取り、希望する研修に参加することで個々の能力向上に努めた。また、利用者の行動に対しての事例検討をミーティング時に行い、職員全員で意見を出し合っチームとしての能力も向上できた。

(6) 防災及び緊急時対応の強化

防災訓練は日中と夜間に火災があった想定で実施した。コロナ禍のため地域の防災関係者を交えた訓練は実施できなかったが、消防署員に立会協力を求めて指導をいただいた。その他、水害想定避難訓練をデイサービスせつたやと共同で実施し、職員の動きを確認できた。

3 事故・ヒヤリハット報告

(1) 発生件数

区分 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事故報告	0	0	2	0	0	1	2	1	2	1	1	2	12
ヒヤリハット	2	1	2	4	6	1	2	0	3	0	1	3	25
計	2	1	4	4	6	2	4	1	5	1	2	5	37

(2) 事故報告発生内容

区分 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
転倒	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0	1	1	6
行方不明(無断外出含む)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
服薬	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	1	4
異食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
計	0	0	2	0	0	1	2	1	2	1	1	2	12

(3) 看護室

1 重点施策

(1) 看護の資質向上

- ① 利用者の状態や状況に応じた看護に向けて、ケア記録への情報入力をより細かく残すことを心掛け、多職種との情報共有に努めた。特に看取り期の入所者に対するケアについては状態像を勘案して看護職員が責任をもって多職種へ発信し、入浴や外出等、看取り期でもできる限り入所者の希望を叶えられるような対応を行えた。
- ② 新型コロナウイルス対応の実践を経て感染症対応の研修に参加し、事業所での対応や看護職員からの指示等が適切であったかを振り返る機会となった。また、研修内容は今後の法人内での感染対策研修の充実やBCP作成に活かしていきたい。
- ③ 新入職員の指導はプリセプター制度を導入して取り組んだ。指導者を定めることで統一した看護技術・業務の指導が可能な反面、指導者へのフォロー体制やコーチングの仕方等の課題も見られたため、次年度以降の取り組みとする。
- ④ 災害発生時に最低限必要な物品や持ち出すものの確認、不備・不足がないような備品管理を行い、不測の事態に備えてきた。災害発生時は法人全体が被災するため、他事業所の看護職員との連携も必要になることから、具体的な役割や初動対応のあり方について災害時BCPに明記できるよう検討する。
- ⑤ 新型コロナウイルス抗原検査の手技は、看護職員の飛沫感染を防ぐとともに的確な査検が行えるよう事前にシミュレーションを行い、準備を進めてきた。また、法人感染対策委員会とも連携し、多職種へのガウンテクニック研修や新型コロナウイルス対応の感染症研修を開催して、予防や発生時の対応について学びを深めた。

8月と11月に新型コロナウイルス感染症が発生したが、嘱託医との速やかな連携と検査の実施、感染拡大防止策を講じることで、看護職員の飛沫感染やレッドゾーン対応の介護職員の感染はなく、最小限に抑えることができた。今後も感染症対策の継続は必須であり、速やかな対応が図れるよう判断・指示を行う。

(2) 利用者の健康管理

- ① 週2回の定期回診では、口頭での状態報告だけでなく、画像や温度版等のデータを用いることで医師が診察する際の情報量を増やし、円滑な回診が進められるよう対応した。また、定期カンファレンスや状態変化時では、多職種との意見交換や状態像の共有をし、統一した対応の中での看護を行った。必要に応じて医師へ上申し、食事形態や内服薬についての指示を受けて対応をした。今後も多職種連携の中で情報共有し、早急な対応ができるよう心掛ける。
- ② 入所者・職員ともに例年になく通常疥癬の発生が多く、専門医への早期受診に努めた。また、勤務時の注意点や入所者へのケアの注意事項、入浴や排泄ケアを行う順番等細かな指示を行い、施設内での感染拡大防止に努めた。在宅サービス利用者を含めて定期的に通常疥癬の発生報告があるため、今後も皮膚状態の観察や早期受診等により施設内感染の拡大防止に努める。

○IIスケールを用いた褥瘡リスク評価及びマットレス管理を機能訓練指導員へ移管

し、特定行為業務が可能な介護職員が夜間帯や緊急時の喀痰吸引を対応することで、多職種と連携しながら利用者の身体機能低下の早期発見や予防に努めた。引き続き連携を図りながら看護職の視点から助言を行う。

- ③ 医師から家族へ病状説明を行う前に、看護職員や生活相談員から家族へ説明した状態や現在行っている医療を含めた対応、家族の予後に対する希望や意向をあらかじめ医師へ情報提供することで家族の気持ちに寄り添った病状説明に繋がられた。また、病状説明後のフォローアップも行い、家族が十分に理解・納得できているかを確認しながらその後のケアを行えるように努めた。今後は、アドバンス・ケアプランニング（万が一の時に備えて、本人による意思決定を基本として家族や信頼のおける人・医療・福祉・介護従事者たちがあらかじめ話し合うこと）にも取り組み、施設での看取りケアが増加している中で、入所者本人が最期をどのように迎えたいのか、本人の意思を尊重してどのように支援できるのか、多職種や関係者と連携をして良い看取りケアに結び付けたい。
- ④ フェニックスネットワークへの情報登録を通じて、嘱託医への情報提供や共有をし、速やかな医療連携を図れた。今後は二次救急の場面でも対応ができるように準備を進めていく。

第3 苦情受付状況

1 事業所別苦情受付件数

事業所名		件数
本部		0
岡南の郷	特別養護老人ホーム岡南の郷	2
	ショートステイ岡南	2
	デイサービスセンター岡南	0
	グループホームこうなん	0
	居宅介護支援事業所岡南	0
	ケアハウス岡南	0
	小計	4
せったやの郷	デイサービスセンターせったや	0
	グループホームせったや	0
	小計	0
合計		4

2 苦情申出人の要望 (複数回答有)

要望	件数
改めてほしい	4
回答がほしい	0
話を聞いてほしい	1
調査してほしい	0
その他(注意してほしい)	0
計	5

3 苦情申出人より第三者委員への報告

報告	件数
必要あり	0
必要なし	4
計	4

4 苦情内容と発生原因

苦情内容	発生原因
利用料過誤の返金対応について	職員の確認・説明不足
面会場所の環境について	職員の配慮不足
事故後の対応について	職員の説明不足・連絡の遅延
ケアの内容、職員の態度について	職員の配慮不足

5 今後に向けて

苦情の発生原因は、職員の確認・説明不足、配慮不足、連絡の遅滞等が挙げられる。苦情の申出があったときは、事実関係を確認した上で説明・謝罪等を行い、迅速な対応に努めた。同様のことを繰り返さないために、当該事業所に限らず法人内において注意喚起を行った。

苦情再発防止のため、管理監督者が職員への指導・教育を徹底するとともに、研修に積極的に参加し、接遇マナーや技術の向上を図る。また、各事業所で実施しているミーティング等で事例や予防策についての情報共有を徹底し、苦情ゼロを目指す。

第4 研修の状況

1 階層別研修

期間(白)	期間(至)	研修の名称	実施団体	開催地	人数	事業所
5月26日		令和4年度新潟県高齢者虐待防止研修	(公社)新潟県社会福祉士会	Web研修	1	ケアハウス
6月16日		令和4年度第2回事業者支援セミナー 「小浜道尊 介護経営セミナー」	(公財)介護労働安定センター新潟支部	Web研修	3	デイ岡南、居宅、デイせったや
7月13日		COVID-19集団感染が発生した病院・施設における管理研修	新潟大学医学部災害医療教育センター	Web研修	2	ケア、GHこうなん
7月14日		令和4年度新潟県高齢者虐待防止研修	(公社)新潟県社会福祉士会	Web研修	1	特養
7月28日	7月29日	令和4年度 社会福祉法人 人事・労務管理講座	全国社会福祉法人経営者協議会	Web研修	1	本部
8月8日		リーダーシップ研修 ～職員から信頼されるリーダーになるには～	(福)新潟県社会福祉協議会	Web研修	2	特養
8月25日	10月31日	令和4年度新潟県主任介護支援専門員研修	(一社)新潟県介護支援専門員協会	Web研修	1	居宅
8月26日		令和4年度第1回生産性向上支援訓練「介護職における職場のリーダーに求められる統率力の向上」	(公財)介護労働安定センター新潟支部	Web研修	1	特養
9月14日		第26回新潟県老人福祉施設研究大会	(一社)新潟県老人福祉施設協議会	Web研修	3	特養
10月4日	12月2日	令和4年度第4回新潟県認知症介護実践者研修	新潟県高齢福祉保健課	クロステレックス十日町	2	デイ岡南、GHこうなん
10月24日		第5ブロック部会 令和4年度第2回研修会 「励めたくなる施設、酔めたくない施設づくり」	(一社)新潟県老人福祉施設協議会	Web研修	1	特養
10月27日		ハラスメント防止対策研修～『介護現場におけるハラスメント対策マニュアル』を読み解く～	(福)新潟県社会福祉協議会	Web研修	2	居宅、デイせったや

期間(自)	期間(至)	研修の名称	実施団体	開催地	人数	事業所
11月1日	11月14日	令和4年度第2回企画研修 「ハラスメントの理解と予防及び発生時の対応方法」	(一社)新潟県老人福祉施設協議会	Web研修	1	特養
12月6日		令和4年度企画研修 BCP研修会	(一社)新潟県老人福祉施設協議会	Web研修	2	特養
12月7日		高齢者施設における感染症対策研修会 「新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けて」	長岡地域振興局健康福祉環境部	Web研修	5	特養、ケアハウス、GH こうなん
12月12日		令和4年度長岡市地域密着型サービス事業所・居宅介護支援事業所合同管理者研修会	長岡市介護保険課	Web研修	3	GHこうなん、居宅、GH せつたや
12月20日	2月17日	令和4年度第1回認知症介護実践研修(実践者研修)	(公社)日本認知症グループホーム協会	燕三条地域地場産業振興センター	2	GHこうなん、デイせつ たや
1月23日		令和4年度長岡市居宅介護支援事業所・地域密着型サービス事業所合同管理者研修会	長岡市介護保険課	Web研修	3	GHこうなん、居宅、GH せつたや
2月1日	2月28日	令和4年度新潟県認知症介護基礎研修	新潟県認知症介護研究・研修仙台センター	Web研修	1	特養
2月27日		令和4年度管理者研修会	(一社)新潟県老人福祉施設協議会	Web研修	4	特養、デイ岡南居宅、 デイせつたや
3月7日		介護事業者のための業務継続計画(BCP)作成セミナー	(一社)中部産業連盟	Web研修	2	GHこうなん、GHせつ たや
3月9日		介護事業者のための業務継続計画(BCP)作成セミナー	(一社)中部産業連盟	Web研修	1	居宅
3月16日		新潟県介護人材確保推進事業 令和4年度中堅職員向け次世代リーダー養成研修	新潟県福祉保健部高齢福祉保健課	Web研修	2	特養
小計		23			46	

2 職種別専門研修

(1) 看護職員

期間(自)	期間(至)	研修の名称	実施団体	開催地	人数	事業所
9月3日		看護職学習支援公開講座 「在宅や福祉施設における感染対策」	新潟県立看護大学 看護研究交流センター	Web研修	1	デイせったや
11月30日	12月7日	新型コロナウイルス感染症対応看護職員養成事業 怪～中等症患者(自宅療養者)対応研修	新潟県看護協会	Web研修	3	特養
小計		2			4	

(2) 生活相談員

期間(自)	期間(至)	研修の名称	実施団体	開催地	人数	事業所
11月1日	12月12日	施設入所・退所時の事務手続等対応研修 ～介護施設における法律事務一成年後見人、身元引受人等を中心に～	(公社)全国老人福祉施設協議会	Web研修	1	特養
小計		1			1	

(3) 機能訓練指導員・介護職員

期間(自)	期間(至)	研修の名称	実施団体	開催地	人数	事業所
5月12日		令和4年度事業者支援セミナー「笑う門にはいい介護」	(公財)介護労働安定センター新潟支部	Web研修	1	デイせったや
6月24日	7月8日	第1ブロック部会令和4年度第1回研修会 「持ち上げない介護～導入から定着まで～」	(一社)新潟県老人福祉施設協議会	Web研修	2	特養
5月18日	5月31日	令和4年度企画研修 第1回研修会 「認知症ケア・パーソンセンタードケアより～最新の情報～」	(一社)新潟県老人福祉施設協議会	Web研修	2	ケアハウス
7月3日		介護職のためのアンガーマネジメント研修	(福)新潟県社会福祉協議会	Web研修	1	デイせったや
7月11日	7月22日	令和4年度事業者支援セミナー 第1回「自分も相手も大切にするアサーティブコミュニケーション」	(公財)介護労働安定センター新潟支部	Web研修	1	特養
7月15日		令和4年度短期専門講習 「今だからこそ！脳活レクリエーション研修」	(公財)介護労働安定センター新潟支部	新潟県健康づくり・スポーツ 医学センター	2	特養

9月15日	令和4年度短期専門講習 「その方の『生きいきる』を支える看取りケアセミナー」	(公財)介護労働安定センター ター新潟支部	Web研修	2	特養
8月6日	令和4年度 略痰吸引等研修	ケアサポート長岡教育センター	ケアサポート長岡教育センター	2	特養
8月9日	口腔ケア研修	(箱)新潟県社会福祉協議会	Web研修	3	特養、GHせったや
8月24日	令和4年度短期専門講習 「気づく介護職の思考力-メタ認知力」	(公財)介護労働安定センター ター新潟支部	Web研修	2	デイ岡南、デイせったや
9月1日	第57回関東ブロック老人福祉施設研究総会 ・山梨県老人福祉施設研究総会合同大会	山梨県老人福祉施設施設協議会	Web研修	2	特養
10月25日	伝える力研修 ～福祉職員に求められるコミュニケーション力～	(箱)新潟県社会福祉協議会	Web研修	1	デイせったや
10月28日	令和4年度 施設介護支援専門員研修 「LIFEに期待すること! (第3弾)」	(一社)新潟県介護支援専門員協会	Web研修	2	特養
11月7日	ファンリテーション研修 ～元気になる会議の進め方～	(箱)新潟県社会福祉協議会	Web研修	1	デイせったや
11月11日	令和4年度短期専門講習 「緊急時の介護と観察のポイント」 ～正確な判断と適切な対応法の知識を身につけよう～	(公財)介護労働安定センター ター新潟支部	Web研修	4	特養、居宅、GHせったや
12月2日	介護記録の書き方研修 ～実務に活かす記録の書き方～	(箱)新潟県社会福祉協議会	Web研修	2	特養
12月7日	モチベーションアップ研修	(箱)新潟県社会福祉協議会	Web研修	1	特養
12月16日	看取りケア研修	(箱)新潟県社会福祉協議会	新潟ユニゾンプラザ	2	特養
1月11日	令和4年度短期専門講習 「身体拘束と介護事故リスク」	(公財)介護労働安定センター ター新潟支部	Web研修	3	特養、居宅
1月17日	令和4年度企画研修 第4回研修会 「LIFEデータの現場での活用と今後の展開について」	(一社)新潟県老人福祉施設協議会	Web研修	2	デイ岡南
2月1日	第3ブロック部会令和4年度研修会 事例発表会	(一社)新潟県老人福祉施設協議会	Web研修	2	特養
2月13日	令和4年度短期専門講習 「介護職のためのストレスコントロール」	(公財)介護労働安定センター ター新潟支部	Web研修	3	特養、GHせったや

2月16日		令和4年度短期専門講習 「介護職のための薬の知識」	(公財)介護労働安定セン ター新潟支部	Web研修	1	ダイせったや
3月13日	3月27日	令和4年度短期専門講習 「言葉のいらいコミュニケーション ご利用者様へのメッセージ」	(公財)介護労働安定セン ター新潟支部	Web研修	3	特養、GHせったや
	小計				47	

(4) 介護支援専門員

期間(日)	期間(至)	研修の名称	実施団体	開催地	人数	事業所
5月18日	5月31日	令和4年度企画研修 第1回研修会 「認知症ケア・パーソンセンタードケアよりー最新の情報ー」	(一社)新潟県老人福祉施設 協議会	Web研修	3	居宅
7月1日	8月23日	令和4年度新潟県介護支援専門員「更新研修・専門研 修」(専門研修課程Ⅰ)	(一社)新潟県介護支援専門 員協会	e-ラーニング 朱鷺メッセ	1	特養
7月11日	7月22日	令和4年度事業者支援セミナー 第1回「自分も相手も大切にするアサーティブコミュニ ケーション」	(公財)介護労働安定セン ター新潟支部	Web研修	2	居宅
7月16日		令和4年度長岡地域介護支援専門員協議会第1回定期 研修会	長岡地域介護支援専門員協 議会	ハイブ長岡	6	特養、居宅
7月21日		フジカルアセスメント研修 ～介護現場で活かすフジカルアセスメント～	(福)新潟県社会福祉協議会	Web研修	2	特養
7月28日		令和4年度第1回在宅医療・介護連携に向けた多職種勉 励会 「コロナ禍から見えてきた入退院支援の現状と課題」	長岡市医療・介護連携推進 センター 長岡市長寿はつらつ課	長岡リリックホール	4	居宅
9月15日		令和4年度短期専門講習 「その方の『生きる』力を支える看取りケアセミナー」	(公財)介護労働安定セン ター新潟支部	Web研修	1	居宅
11月18日		支援者研修会～事例から学ぶ高齢者の精神疾患の理 解と対応～	新潟県長岡地域振興局健康 福祉環境部	Web研修	1	居宅
11月24日	12月22日	令和4年度新潟県介護支援専門員「更新研修・専門研 修」(専門研修課程Ⅱ)	(一社)新潟県介護支援専門 員協会	Web研修	1	特養
11月24日		令和4年度介護サービス研修会	長岡市長寿はつらつ課 高齢者基幹包括支援セン ター	Web研修	2	居宅

12月8日	令和4年度認知症早期介入研修	新潟県長岡地域振興局健康福祉課寛部	Web研修	1	居宅
3月6日	令和4年度「長岡保育園と地域機関の連絡会」	新潟県長岡地域振興局健康福祉課寛部	Web研修	1	居宅
3月14日	地域別多職種交流会「障害と高齢の連携について」	長岡市地域包括支援センターみやうち・やまこし	高齢者センターみやうち	1	居宅
小計				26	

(5) 事務員・栄養士

期間(自)	期間(至)	研修の名称	実施団体	開催地	人数	事業所
5月18日		飲酒運転防止 内部管理対策セミナー	三井住友海上保険(株)	Web研修	1	法人本部
6月10日		【入門編】いま知っておきたい電子帳簿保存法の勘所！	応研(株)	Web研修	2	法人本部
6月14日		ペーパーレス時代に向けた社会福祉法人の事務効率化	応研(株)	Web研修	2	法人本部
8月1日	9月16日	令和4年度社会福祉法人・施設「会計実務＜基礎＞研修会	(福)東京都社会福祉協議会	Web研修	1	本部
10月20日		社会福祉法人における経営分析セミナー	応研(株)	Web研修	1	法人本部
12月2日		高齢者施設向けBCP策定セミナー(BCP解説)	三井住友海上火災保険(株)	Web研修	2	法人本部
1月31日		令和4年度要配慮者利用施設防災講演会	長岡市危機管理防災本部 防災政策担当課部	長岡リリックホール	3	法人本部、デザインせつたや
2月13日		令和4年度社会福祉法人会計実務者決算講座	(福)全国社会福祉協議会 全国社会福祉法人経営者協議会	Web研修	2	法人本部
小計					14	
職種別専門研修 合計					92	
総合計					138	

